

開 議

○大沼 久議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、ございません。

なお、平進介総務課長が欠席のため、齋藤環樹総務課補佐が出席しておりますので、ご報告いたします。

また、山形新聞社長井支社長からパソコン使用について申請があり、許可いたしましたので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○大沼 久議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

渋谷佐輔議員の質問

○大沼 久議長 それでは、順次ご指名いたします。

順位1番、議席番号10番、渋谷佐輔議員。

(10番渋谷佐輔議員登壇)

○10番 渋谷佐輔議員 おはようございます、というより「随分お寒いですね」というあいさ

つが似合うかと思います。

ことしも残りわずかとなりました。この1年、いろんなことが記憶にとどめられます。一昨日でしたか、ことしの流行語大賞では、「イナバウアー」と「品格」という言葉が年間大賞を受けられました。オリンピックで荒川静香選手が金メダルに輝き、小さな子供たちまでが「イナバウアー」と言って喜び、はしゃいでいたのが思い起こされます。

さて、その子供たちの世界で大きな変化が胎動し始めています。ご存じのように、連日子供を取り巻く環境の中で、いじめ、自殺、虐待、非行、事件に巻き込まれるケース、果ては教師のあるまじき行為がテレビ、新聞などで報道されています。報道が過剰反応しているという指摘もありますが、事実は事実として受けとめ、再び繰り返されることがないように願わずにはいられません。平穏な長井市に水を差すようなことにならないか自問するところもありましたが、あつてはならない悲劇から「育てる・はぐくむ」教育への実践に向けて登壇させていただきました。

通告に従い、質問に入ります。

まず、私は、子供の世界、子供社会について、「いじめ」と「自殺」、そして「教育とは」について教育長と語り合いたいと思います。

今、なぜいじめ、自殺という現象がクローズアップされているのでしょうか。人の命と心を軽視する悪の根源を絶やさなければならない。人道、人の道の問題であると思います。

さて、私たちの周りではどうでしょうか。報道されているような問題や悲劇は起きていないのか。長井市の現状について、どうなのでしょう。お聞かせいただきたいと思います。

私も学校、PTA、子供会、あるいは地区公民館の立場から、原因や対策などいろんな話を伺いましたが、特効薬的なものは見出せませんでした。冷静に、それでも緊張感を持っている

ことはうかがい知ることができました。

例えばある小学校長は、とにかく子供たちと少しでも多くの時間を触れ合うこと、話し合うことで少しでも早く心の変化をキャッチしようとしておられました。子供の前では絶対に明るく振る舞うよう、そして子供の変化を察知したら優しい心と笑顔で向き合うよう教師には指導しているということでした。

指導面で、私はとりわけ小学校1年生から3年生までの3年間で精神教育に一番大切に有効な時期であると思います。したがって、このような混沌とした子供社会を超えることができるのは日本型の教育文化である道徳、礼儀、修行といった訓練による徹底した指導を提案いたしました。この時期に「ならぬものはならぬものです」ということを教えることは理解されましたが、授業として組み込むことは難しいが、そういう精神を具体的な手法で教えていきたいという校長先生のお話でした。教育長の所見を伺いたいと思います。

あるPTA会長は、いじめの形として、1人ではなく仲間を組んで嫌がらせをするタイプと理解しております。そして、子供たちはいじめの認識は持っていないことと、学校側もいじめの認識は薄いのではないか。それは境目のない皆で見ている場合が多いということは、いじめ、ふざけ、戯れ、からかいなど、何をもっていじめとするのか判断が難しい。さらに受けた子供は心の中でいじめられた孤独感が大きく、信号を送っていることに親が気づかない、そういうことからはけ口を自殺という行為に走らせるのであろうと推理しています。

この状態を防ぐには、保護者として、親としてのレベルをみずからの手で成長、努力しなければならないということを強調されておりました。子供の肉体的変化に気づいていても心の変化に気づくことができない。子供の行動を常にキャッチできる親になるべきだとしています。

子供は親の後ろ姿を見て育ちます。行動を見えています。考え方を見えています。特に若い親御さんは自分自身、体は大人になっておりますが、考え方は大人になっていないのではないか。成長すべきだと厳しくとらえていました。

いじめや自殺に対する防止策は学校だけでなく父親教育、母親教育も重要な子供の健全育成、そしていじめ、自殺を防ぐかぎを握るものと思っております。教育長の見解を伺いたいと思います。

地域子供の会の会長さんの一人は、いじめとは弱い者いじめであるとしています。弱い者とは、身体的に欠点のある人や精神的に弱い人を言い、いたずら、からかいをいじめととらえています。いろいろないじめ方があって、それらに負けて孤独感、恨み、心を開いて話せる人がいないことで自殺に走るととらえています。

対策として、教える環境の問題を指摘しています。いじめをいち早くキャッチすること、コミュニケーションを図ること、これは学校も家庭も同じでしょう。そして彼が言う特筆すべき対策として、熱血男性教師の出現、あるいは男性教師の倍増計画という提案もありました。私も教育に関する座談会で「父兄から質問されて泣いている男性教師がいた」との話を知りました。問い詰める父兄もどうかと思いますが、泣き出すようなひ弱な教師であっては子供を任せておけないという心配はあります。教えることに悩んで欠勤する教師はおりませんかかもしれませんが、教育に対して自信と責任を持ったたくましい教員が望まれると思いますが、教育長の所見を伺いたいと思います。

この項の最後になりますが、地域での取り組みという視点で触れてみたいと思います。西根地区においては、比較的教育的に公民館を核として取り組みを深めています。昭和56年から教育座談会と称して各地区分館をめぐり、年に2カ所で教育委員、小中学校長、児童センタ

一長を指導者として招き、地域での話し合いを展開しています。ことしも五祭所地区、仁府地区で行いました。テーマは「遊びと我が家の約束事」ということでした。そこでは、いじめ、自殺といった表現は出なかったようですが、子供の遊びのパターンが変化していること、コミュニケーションがうまくいかない、子供の行動に親がついていけないなど、家庭での子供とのかかわりに不安がにじみ出ていることは、いじめや自殺に結びつく要素が潜在している危険な状況と言わざるを得ません。

この中でメディアに対する注文もあったということです。最近のテレビ番組は、バラエティーやお笑い風で低俗化していないかという指摘です。ゲーム、携帯電話、低俗番組など、決して教育上好ましい環境とは言いがたいことです。ただし、このように地域が前向きに、地道に教育環境づくりに取り組んでいることは特筆すべきことと称賛されていいものと思います。加えて、ことしは西根教育村5周年の記念大会も実施されました。そこでは、「あいうえお運動」として、「あ」は、明るく温かい家庭をつくります。「い」は、命の大切さを認識し、みんなで声をかけ合います。「う」は、美しい環境を守り、安全で住みよい地域をつくります。「え」は、笑顔で元気にあいさつを交わします。「お」は、思いやりといたわりの心を持って接しますという大会宣言です。この運動を広く市民共有の運動として「長井教育のまち宣言」をしてはいかがでしょうか。教育長の見解を伺いたいと思います。

質問の最後は、市長にお尋ねいたします。市長はあと幾日でその任務を終えようとしています。2期8年間、本当にご苦労さまでした。ねぎらいの言葉に尽きます。

市長は、行財政改革、産業経済政策、福祉、医療、社会保障、教育及び市民生活にと多角的に市民のかじ取り役として頑張っておられました。

た。市長が今振り返って、教育にかかわる施策について納得するところ、悔いの残るところ、いろいろあると思いますが、所感を伺うことができれば、私たちの指針づくりや施策づくり、方向づけに生かせるものと思います。ご所見を伺いたいと思います。

今回の質問のテーマとしているいじめ、自殺といった悲しい出来事、あつてはならないことを未然に防ぐためにどのような手だてがあればいいのか、お考え、ご所見を伺いたいと思います。

「水と緑と花の長井」が一層明るい未来を展望するとき、新しい市長も誕生しました。来春には4年に1度の市会議員の選挙も行われます。しかし、一番心ときめくのは、未来を託す次の世代を担う子供たちです。登校時に緊張した面持ちで上級生に見守られ、下校時には解放された子犬のように明るく元気に帰宅する姿を見たとき、長井市の将来は明るい実感するものです。陰湿ないじめ、そして自殺、あるいは非行、虐待など絶対にあつてはならないことを願い、壇上よりの質問を終わります。

ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 渋谷議員から丁寧なるねぎらいの言葉をいただきました。

市議会の皆様、広くは市民の皆様、職員の皆様に大変ご協力をいただいた8年であったと思いますし、特に市議会の皆様には建設的な提言等いただきながら、励まして、支援して、支えていただきまして、本当に改めて御礼を申し上げます、感謝を申し上げます。

そこで、この教育行政についてであります。私は、この8年間、「基礎的学力」、「基礎的体力」、あるいは「本物に触れる感性」、この3つを磨いていくのが教育であると、そしてたくましい子供たちをつくる教育という目標を掲げさせていただきました。具体的には、基礎的

学力というのは私たちの時代は読み書きそろばんだったわけですが、コンピュータを使いこなす、それから国際化に備え英語をしゃべれる、話せるというのが大切ではないかと。そこで、コンピュータについてはできるだけ1人1台使いこなせるように配備に努めてまいりましたし、英語教育等については、ALTを設置し、ことしはもう2人になりましたが、若いうちから、できるだけ小学校のときに英語がしゃべれるようにと、そういう教育を目指してきたつもりであります。

基礎的体力等については、これは中体連等の成績を見ますと、数年前は4つの山形県一をつくっていただきました。サッカーなんぞは南北中学校で決勝という、これもはっきりと長井の子供たちの体力は上がったという具体的なあらわれではないかと関係者の皆様に特に敬意を表したいと思います。

本物に触れる感性につきましては、例えば第九やオペラのときに、その前の日の直前の練習風景は中学校の皆さんにただで見てもらうというようなことを通し、あるいはROBO-ONEとか、この間のマイクロマウスですね。マイクロマウスなんかも長井小学校の皆さんは10台持っておいでです。非常に子供たちにもものづくりに対する大切な、そして全国レベル、世界レベルというものを実感してもらえるように、そして参加してもらえるように、そういった機会をつくってきたつもりであります。

高校教育等についても、長井高校は進学等でも好成績をおさめておりますし、長井工業高校につきましては、11月2日のNHKの「クローズアップ現代」でも、ものづくりの人材を育てている工業高校としては全国でやっぱり非常にまれな例ではないかと、全国放送、関満博さんからも紹介していただけるように、あるいは3級技能士等はことし19人ですか。2級も含めると24人。普通の高校では二、三人だそうです

ね。これは二、三人は優秀な人はいるんだけど、20人近くというのはめったにないという具体的な事実で全国に紹介していただけるような立派な工業高校になってきたと私は思います。

山形工科短大も頂上祭（てっぺんさい）を町でしていただけるのを象徴のように、いろんなNPO等にも参加していただきました。あるいは地域の運動会等にも参加していただいて、この40数名の皆さんが、伊佐沢だけではなくて地域のやっぱり活性化に非常に貢献をしていただいた、そしてものづくりのやっぱり原点である家づくり等にも頑張っていたいてきたというふうに私は思っているところであります。

社会教育面では、やっぱりできればおもしろくて楽しいまち、あるいはわくわくするまち、あるいは感動するまちというのを目指している芸術文化運動に、わずかですが、ご支援をしたつもりでありますけども、それなりに、例えばオペラの成功は13年のバンドdeオペラ、それから16年の第九、そしてこのオペラというふうに段階を踏んで層が厚くなり、そしてレベルも高くなって、21名のオペラのうち女性の方、12名は指揮者の方からもプロ級だというふうにお褒めの言葉を私自身お聞きしまして、大変うれしく思っているところであります。文化面でも前進があったのではないかとというふうに思っております。

ただ、ご指摘のやっぱりいじめ、自殺ですね、これは非常に全国的に見ると非常に残念な痛ましい事態だと私も思います。私は、例えば自殺というのは最悪な選択なわけですから、よく言うんですが、将棋で言えば投了、終わりですね。これはやっぱり避けなければいけないと、どうしたらやっぱり避けられるかということのみずからも問いただしています。

私たちのときにもいじめが全然なかったかといえば、それはやっぱりあったと思うんですね。しかし兄弟がいましたから、弟や妹がいじめら

れていれば、それはやっぱり兄貴がおれの弟や妹をいじめるなというふうにいじめてるやつに警告を發した。あるいはがき大将というのがいます、ある程度派閥があったりするわけですが、あるグループに属すれば、そののやっぱりグループのがき大将はやっぱり自分のグループを守ってやったというようなことがあって、最悪の自殺ということは防げたのではないか。それに比べれば、今の状況は、今のいじめは、どうも石田衣良の小説の「少年」という小説にあれなんです、一番後ろにいるのが一番でいい、県警警察本部長の、小説の話ですけどね、一番力のあるのは一番後ろにいて、ある程度けしかけて、気に入らないやつをやれという状況です。子供たちもやっぱり一人っ子や子供が少なくなってる。そうすると、兄弟も割合に孤立しがちになってくるということ。

また、まじめでいい子なんです、ある意味では。言い返せないわけですよ。言葉によるいじめなんていうのは、例えば私のように聞かないやつであります、いじめられたら言い返しやいいわけですから、2倍、3倍も言い返せばいいわけですから、言葉によるいじめなんていうのは、それはある意味でやっぱりはね返していくと。

最後は、やっぱり子供たちにも教えたいのは、自分の身を守るのは結局自分なんだということです。そして最悪の選択をしちゃいかんということです。ここをまず教えなければ私はいけないというふうに思います。

それから、今のいじめの状況からいえば、いじめてる、けしかけてる、あるいは見て見ぬふりをする、見て見ぬふりをするのも次に自分の周りに回ってくるのが怖いからなわけですから、これは加担をしているという状況にあるわけですが、一番やっぱりもとなっているのは何かということをやっと突きとめて、その子にはしっかりとやっぱり個別の指導をしなきゃいけ

ないと私は思います。社会は人を殺せば、それは殺人という応報の報いがあるんだと、これはある意味で、法社会なわけですから、やったことについて責任をとらなければいけないというのが、これが社会であります。これは大人の社会であります。それはある意味で子供にも、いずれ大人になるわけですから、そのことをしっかり教えるためにも個別のきちとした指導が必要なのではないかと。

私は、教育再生会議なんかで登校停止なんていうのは余り賛成しません。喜んで、「ああ、休みか」というふうになっちゃ全然ならんわけですから、やっぱりそれはその原因をしっかりとつかまえて、そして調べて、そしてそれについて一番のものとところをしっかりと指導していくということが私は大切なのではないかとこのように思っております。

もちろん学校と親と地域との連携が非常に大事であります。こういったことを大ごとにならないように、それをどうやっぱり対処するかが健全な社会の一つのバロメーターになっておるわけですから、連携を深めながらやっていかなければいけないのではないかと、人のせいだとか、他人のせいだとか、あるいは社会のせいだとかいうことでなくて、やっぱりそれぞれの立場の中で知恵を出していく、そして行動を起こしていく、責任をとっていくということが大切なのではないかとこのように思っております。

きのう、新野豊松先生の葬儀に参加させていただいて感動したのは、常に新野先生は具体的に昼休み、さっさとご飯を食べて、必ず子供と一緒に遊んだというんですね。できるだけ多くの子供と一緒に昼休み遊んだと。そして顔色悪くないか、何かあれないか、相談することはないか、担任でなくてもやっぱりそうやって自分の昼休み時間を子供と遊ぶことによって、やっぱりその子供たちをよく見て、触れ合って、

+

そして励ましていたという話をお聞きしました。すばらしい先生だったと思いますが、ぜひ座談会で泣き出すというのではなくて、それはやっぱり子供たちと、何も友達感覚になれというだけではありません。やっぱりしっかりと触れ合って、そして子供たちの状態をよく知って、そして指導すべきところは指導する、強く言わなきゃいけないところは強く言うということが私は大切なような気がしております。これは具体的には教育委員会の問題ですし、教育長さんがお答えになると思いますが、所感を求められましたので、私はそう思っているということをお上げしました。ありがとうございました。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 おはようございます。

渋谷議員から5点ほどご質問がありましたので、そのことについてお答えをしたいというふうに思います。

まず、第1点目ですが、長井市内小中学校の実態についてお答えをします。

11月に入って、文部科学大臣あての自殺予告手紙などもあって、市内の各小中学校とも学校独自でアンケートによる実態調査をし、それをもとに個別相談等を通して事実関係を明らかにし、対応してもらっているところです。軽度の言葉によるからかいなどはどこの学校にもあるようですが、当該の保護者、PTAの役員等を含めて早急に対応した事案が2校から報告を受けています。学校の方からも問題があればすぐに報告が来ますし、教育委員会としても、学校と協議しながら対応を進めているところです。今回も2校とも迅速でかつ適切な対応で、現在は解決している、または解決の方向に向かっているという報告を受けているところです。

学校でも家庭でも地域でもいじめはあってはならないというスタンスで指導をしなければならないわけですが、集団がある限りいじめを根絶するという事は極めて大変でないかなとい

うふうに私は思っています。ここ2週間くらいでいろんなところから児童生徒、保護者、地域に向けて一人では悩まないで周りの大人に相談しようというような緊急アピールが出され、児童生徒、保護者の方に配付しましたが、我々大人がいじめは絶対に許さないという毅然とした姿勢といじめが発覚したら素早く対応し出口を見つけてやる、解決してやることで大人は信頼できるということをお子に思わせない限り、子供たちは相談するという事はないんじゃないかなというふうに思います。そういう意味で、今回の2校の対応は、いじめは絶対許さない、大人が守ってやるという強い姿勢をお子たちに発信し、保護者の理解、協力を得ながら適切な対応だったと思っています。

2点目の日本型の教育文化である道徳、礼儀、修行といった訓練による徹底した指導はいかがかということについてお答えをします。

先ほど渋谷議員の方からもありましたが、ことしの流行語大賞の一つに「品格」という言葉が選ばれたようですけども、「国家の品格」という本を書いた藤原正彦先生は、「日本が古来から持つ情緒と伝統に由来する形を見直していこう」という提示をしています。特に「武士道の中にある敗者への共感、劣者への同情、弱者への愛情が重要な徳目である」と説いておられます。私も日本のすぐれた精神文化を見直す必要があると思いますが、価値観の多様な時代に今の保護者に具体的にどうするかとなると、難しい問題があるなというふうに感じています。

その対策の一つとして、学校では教育活動全体を通しての道徳教育の充実はもちろんですが、よい本に触れる親子読書の充実とか、また日本には礼とか形とか精神を重んずる茶道、華道、書道とか剣道、柔道などの武道という「道」のつくものがたくさんあります。その精神を部活動などの重要な取り組みとして教えていくことも必要ななというふうに思います。

それに、我々が子供のころ、どの家庭でも生活の中で教えられた自然の偉大さとか神の力のような目に見えない人間の力を超えたものに対する畏敬の念を家庭の中で教えていくことも大事でないかなというふうに思います。「三つ子の魂百まで」と言われます。小学校低学年までの教育の中で私が大事にしたいということは、しつけとかかかわりとか感性の教育だと思っています。人間として生きるための不易なものを幼児期から各家庭の中で教えていくことは極めて大事なことだなというふうに考えます。

3つ目の父親教育、母親教育についてですが、いじめの要因としては家庭内の問題による欲求不満、ストレス解消の手段の乏しさ、基本的な人間関係のルールの未習得、大人社会の反映など家庭内の問題、少子化からくる問題、体験不足からくる問題、大人社会の問題などが上げられているようです。いろんなストレスのはげ口を学校内の人間関係の中の弱者に求めるようになったとき、いじめに発展する可能性があります。子供たちのいじめや自殺を防ぐには子供の理解者が必要ですし、子供の行動の変化、心の変化にいち早く気づく大人の目が必要です。特に身近に子供たちとかかかわっている教師、親の存在は重要だと考えています。

そういう意味で、私なりに親として、家庭として大事な点を上げさせていただくならば、やっぱり明るい雰囲気のある家庭、他人を批判したり非難したりしない親、言葉の乱れない親。今の若い親には何か「い」で終わる三文字言葉というんだそうですが、「うざい」「ださい」、「きもい」「くさい」こういう言葉を使う人がいる。親として慎むべきと思っています。それに、子供の言動の変化に敏感な親。それには日ごろの子供への目配り、気配り、心配りが必要です。また、子供の自主性、自立する力を阻害することなく見守る姿勢も必要だと思いますし、子供が本当に困ったとき、頼られるような親の

姿を見せておくことが大切であると考えています。子育ての第一義的な責任者は親ですから、渋谷議員ご指摘のように、他人任せにせず、親自身も勉強していく必要があると思いますし、家庭の中では少々のことではへこたれないたくましさを育ててほしいと思っています。

4番目の教育に対して自信と責任を持ったたくましい教員が望まれるのではということですが、私の経験から申し上げれば、女性教師が教育への情熱とか自信、たくましさの点で男性教師に見劣りするとは感じていません。共稼ぎの場合、幾ら男女共同参画社会とはいっても家事とか子育てはどちらかというと女性に負担がかかり、その分、男性より時間的な余裕はないわけですが、生徒指導面でも、学習指導面でも、情熱という点でも、男性に劣るということはありません。大事なことは、性差ではなくて、議員ご指摘のように教育に対する専門性とか情熱、たくましさだろうと思っています。

5点目の「長井教育のまち宣言」についてですけれども、西根地区が「教育の村宣言」をして5周年、「あいうえお運動」という具体的な運動を展開し、地区全体で子供の健全育成、明るく美しい地域づくりに取り組んでおられることに敬意を表したいというふうに思います。教育委員会としては、今、「長井の心」の育成に取り組んでいるところですが、学校教育の中ではかなり浸透してきたなというふうに感じていますが、市民全体の意識はまだまだだというふうに感じます。また、社会教育委員を中心に現在、長井市の「生涯学習中期振興計画」を策定中ですが、その中でも、家庭教育が話題になり、例えば早寝早起き朝ご飯運動など、子供たちの健全育成のため市全体として取り組むべきでないかななどの話もあります。西根地区で取り組んでおられる「あいうえお運動」は、内容を見せていただきますと、各学校でも取り組んでいる内容ですし、長井の心にも関連のある内

+

容ですので、「長井教育のまち宣言」をするかは別として、PTAなどに働きかけをして市全体として統一課題で取り組むことも大事なことかなと思いますので、検討をしたいというふうに思います。

以上です。

○大沼 久議長 10番、渋谷佐輔議員。

○10番 渋谷佐輔議員 それぞれにご答弁いただきありがとうございます。

市長に1点だけ、やっぱり読み書きそろばん、確かに大事だと思います。ただ、こういう事態になると、私は思うんですが、やはりさっきあった情緒とか道徳とか、こういうものをやっぱりきちっと教えていくということが大事だなと思いますが、その点ひとつちょっと市長のご所見を伺いたい。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 おっしゃるとおりだと思います。私も基礎的学力のほかに基礎的体力、それから感性と申し上げましたが、感性の中にはもちろん人の道としての道徳というんでしょうか、これはやっぱり人間の基本でありますから、当然大事だというふうに私も思います。

私はやっぱり子供たちにもう一つだけ言いたいのは、自殺する場合に、メッセージを残して死ぬというのはある意味で仕返しなんです。死んで仕返しというのはだめなんで、それはやっぱり周りの人は本当に悲しみますし、やっぱり戦う心というのは必要なんだろうというふうに思います。その戦うという基本は、それは自分に対して信念がなきゃならない。それはやっぱり人の道として自立をしていくんだと、自分はやっぱり多くの人に力を与えていただいて、教えていただいて、感謝をしながら力をつけていくわけですが、やっぱりその根本に強い心とか、ある意味で心情とか信念とか、そういうものを少しずつ子供に植えつけていく、これがやっぱり道徳であろうと思います。先人

たちばかりではなくて、偉人たちばかりではなくて、やっぱり日本の社会に脈々と打ってきた謙譲の美德であるとか、そういった道徳の大事さを教えていくということが極めて大事で、教育の面でも社会の面でも大切だと思っております。

○大沼 久議長 10番、渋谷佐輔議員。

○10番 渋谷佐輔議員 いじめは自分も相手も非常に悲しいこと。なぜ起きるのか。心の鍛錬、人の道に対する訓練だというふうに思っています。今やるべきことはだれがいつどこでどのような形で水を注いでいくか、肥やしを与えていくかということだと思います。

さて、先ほど教育長からアピールの話が出ました。私もちょっといただきました。テレビ等でもございましたが、文部科学大臣からありましたね。未来ある君たちへ。それからお父さん、お母さん、家族の皆さん、学校や塾の先生、スポーツの指導者、地域の皆さんへメッセージ、お願いがございました。それから全国都市教育長協議会というところから「一人一人の命の尊厳を守るために」と緊急アピールが出ております。それから社団法人日本PTA全国協議会、「いじめ根絶といのちの尊さを訴える」。このようなアピール、緊急アピール、3つほどいただきました。先ほど教育長は指導しておりますということでしたが、どのようにこのアピールを教育長は受けとめられましたか、もう少し詳しく先ほどの答弁に加えていただければありがたい。できれば、あるのかないかわかりませんが、本当に子供と一番身近に接している教員、例えば全国的に日教組とか教職員組合とかあるわけですが、そういう方面からのアピールはあったのかなかったのか、範囲内でお答えいただければありがたいと思います。教育長にお願いします。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 私の方に、教育委員会の方に

届いているのは全国都市教育長協議会の方からと文科大臣からのアピール2つですが、これについては、先ほど申し上げましたように、教育委員会の方で全児童生徒分を印刷し、保護者分も印刷して各学校の方に配付をしました。

私は、このアピール文というのは大変大事なことだとは思いますが、本当にさっきも言ったように、子供たちが教師なり親に相談するというのはやっぱり大人に話をすれば何とか解決してくれるんだという子供の信頼感がないと、やはり大人に相談しないと思うんですよ。その辺が大事なことなのかな。そういう意味で、教師や親も周りにいる大人もやっぱり子供たちに信頼されるような大人でなければならないというふうに思います。やっぱり子供たちの成長段階というのは中学生のころは特に秘密主義的などころがありますので、自分で解決したいという気持ちもあるでしょうし、それが大人になる一つの過程だと思うんですね。そういう意味で、すべてを大人に頼るというふうなことはない。本当に困ったときにはやっぱり逃げ出すことも必要だという有識者の方もおります。ぎりぎりの状態に追い込まれる前に、やっぱり逃げ出すことも必要なのでないかなというふうには思います。

○大沼 久議長 10番、渋谷佐輔議員。

○10番 渋谷佐輔議員 ありがとうございます。

いじめをなくすには何を教えるか、私から言えば、たれこめということをお願いしたいと思います。過日の岩手日報の社説にこんなことがありました。いじめは人権を踏みにじる犯罪行為である。許されないし、社会全体で再認識すべきである。家庭では、幼少期から確実に伝えるべきである。かつて古代中国の規則について書かれた「什のおきて」のならぬことはならぬという決して曲げてはいけない規則があると、精神と心構えが必要だという「什のおきて」を引用

しています。

この部分について、私も「国家の品格」という本を読んでみました。その中にあるんですね。

数学の世界でさえも論理では説明できないことがある。まして一般の世界では、論理で説明できないことの方が普通です。例えば「人を殺してはいけない」ということだって、論理では説明できません。人を殺していけない論理的理由なんて何一つない。私に1時間くれば、人を殺してもよい理由を50ぐらいい見できます。人を殺してもいけない理由も同じくらい見つけられます。論理的理由だけなら、よい理由も悪い理由も幾らでもある。人を殺していけないのは、だめだからだめということに尽きます。以上、終わりでは論理ではありません。このように、最も明らかなように見えることから、論理的には説明できないのです。

江戸時代、会津藩に日新館という藩校がありました。白虎隊も教えを受けていた藩校なのですが、ここに入る前の師弟に対して「什のおきて」というのがありました。そこにはこう書いてあります。1つ、年長者の言うことに背いてはなりません。2つ、年長者にはおじぎをしなければなりません。3つ、うそを言うことはなりません。4つ、ひきょうな振る舞いをしてはなりません。5つ、弱い者をいじめてはなりません。6つ、戸外で、うちの外で物を食べてはなりません。7つ、うちの外で婦人と言葉を交えてはなりません。武士道精神に深く帰依している私には、非常に納得できるものです。7つ目を除いては。7つ目というのは、うちの外で婦人と言葉を交えてはいけません。

そして、これら7カ条の後には、こんな文句で結ばれます。ならぬことはならぬものです。要するに、これは問答無用、いけないことはいけないと言っている、これが最も重要です。すべてを論理で説明しようとすることはできない。だからこそならぬことはならぬのですと価値観

+

を押しつけたのです。

このような文章があるわけですが、この部分が恐らく流行語大賞の「品格」ということの一
番のスタートではないかと私は思っています。

学校でのいじめが社会問題になってから、全
国の小学校長さんから、この教えを現代風に変
えて教えたいという声が大変多いと。何年前に
なりますか、10年ちょっと前でしたか、私も鈴
木武次議員や、あの当時、3人、4人ぐらいの
仲間と会津の日新館を見学しました。「什のお
きて」とともに、あそこではこういうことを知
りました。仁義礼智信忠孝悌敬。いわゆる仁と
いうのは思いやりの心、佐藤仁さんという方も
たくさんおられます。人を許す心。それから義、
これは正しい筋道を通すこと。礼、これは礼儀
作法、社会生活の秩序。智、これは知恵ですね。
あるいは知るということ。正しい判断力。信、
これは信頼、誠実、うそを言わないということ。
忠、これは真心、陰ひなたのない心。孝、親に
は真心を持って仕えるということ。悌、これは
弟。目上の人を敬うということ。最後の敬、相
手の人格を尊重するという。この仁義礼智
信忠孝悌敬、時々私も心に刻むんですが、なか
なか実行できない。これらを形態的に教えるべ
きだと私は思っているんです。どのように形で
教えることができるか。何か形態的なものはな
いか。

先ほど部分的に教育はしてますということ
でしたが、私もちょっとデータのなものを見まし
た。インターネットで構造改革特区というところ
を見ましたら、この中に平成15年から18年ま
での認定、申請になったいろいろなものがあり
ました。特区の申請、長井も特区申請しました。
604件、平成15年から平成18年までにありまし
た。その中に取り消しというのが非常に多いの
でびっくりしたんですが、取り消しが306件あ
りました。だから残ってるのは300件ぐらい。

文部科学省関係では、私がちょっと数えたの

でプラス・マイナス5ぐらいはあると思うん
ですが、文部科学省関係では127件。それは特区
研究開発学校の設置ということで、市町村教職
員の任用容認、あるいは3歳未満児の幼稚園の
入園容認、ALT認可、そういうことで特区研
究開発学校の設置というのがありました。その
中で、特に教育課程の弾力化というものが91件
ほどありました。多いなと思いました。その中
で、例えば静岡県伊東市の場合、小学校1年生、
2年生に対して書道科を設置した。児童の心の
教育、豊かな感性を培うためにという目的で。
それから世田谷区では、全小中学校で日本語科
を設置した。これは国際社会の中で生き抜くた
めには日本文化を理解した人材育成が必要だ
ということで設置を認定しております。それから、
おもしろいのは兵庫県の尼崎市、これは小学
校教育課程に計算科というのを設置した。そろ
ばんによる基礎的知識と技能を習得させよう
という目的です。それから福島県の喜多方市では、
小学校に指導要領によらない農業科を申請した。
将来農業の理解者、あるいは支援者を児童の段
階から育成するという目的。このように独特の
科を設置して指導していくというパターンがあ
るわけです。そのようなことから、長井市にも
と言っては語弊がございしますが、このように道
徳、しつけ、あるいは情緒をはぐくむという意
味で長井市もこういう科を特区に申請して指導
したらどうかという思いつきでございしますが、
考えました。

さらに、この中で見つけたおもしろいとい
うか、おもしろくはないかもしれませんが、私は
常々思うんですが、先ほど申し上げたように、
1年生から3年生まで、6歳から9歳までのし
つけ、教育が一番大事だと思っております。そ
ういう意味で、学年制、これもちょっと検討し
てみてはどうか。例えば香川県の高松市ある
いは奈良県奈良市では、4・3・2制を導入した。
宮城県登米市では、3・4・2制を設けて、特

区申請してやっています。こういう取り組みやっていますので、私は1年から3年生あるいは6歳から9歳まで、徹底して人の道、先ほど市長からあったように、武士道というようなこういう日本古来の道徳、情緒をはぐくむということを見直すべきであるというふうに私は思うんです。そういう意味で、想定外の質問かもしれませんが、教育長、この辺についてご所見を伺いたいと思います。

○大沼 久議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 学年制については、教育基本法の改正案が成立すれば義務教育9年というのは、その条文がなくなってるんですね。何年になるかというのは学校教育法等で規制されるんでしょうが、学年制を変えるという考えは今のところありません。ただ、いろんな道徳的な徳目の件について、これは市内全体でどういうふうに考えていくか、または統一して取り組んでいくかということについては、さっき申しあげましたように、内容を検討しながらどうするかは検討していきたいというふうには考えています。

○大沼 久議長 10番、渋谷佐輔議員。

○10番 渋谷佐輔議員 大変ありがとうございました。

教育長さんにはもう風邪を召されて大変気の毒な状態だったと思いますが、本当にいろいろ忌憚のない質疑応答をさせていただきましてありがとうございました。

私たちがこうしてられるのも先輩や周りの人から道徳や、そういう修身というか、情緒というか、いろんなことを教えていただきながら育っていると、こうしてられると思います。これから私たちは道徳とか情緒といった、こういう日本古来の教育を少しでも伝えていきたい、そして元気で明るい子供の健全な育成を進めていきたいと願いながら質問を終わります。ありがとうございました。

蒲生吉夫議員の質問

○大沼 久議長 次に、順位2番、議席番号17番、蒲生吉夫議員。

(17番蒲生吉夫議員登壇)

○17番 蒲生吉夫議員 おはようございます。

通告しております3点について、順次質問をいたしたいと思います。

最初に、11月19日に執行されました「長井市長選挙を終えて」というテーマで質問をいたします。

振り返ってにしようか、どういう通告にするか迷ったのですが、私自身、4人のどの候補にも積極的な加担をしなかったという意味で、終えてというのが適当だろうと考えたところであります。

市長選挙において4人の候補者というのは長井市制始まって以来ということでマスコミ的にも大きく取り上げられたことや、候補者それぞれがさまざまなまちづくりの政策を掲げ、戦われた意義は大きく、私たち議員にとっても、すぐれている部分についてはまちづくりの参考にさせていただきたいと思います。

それにしても、選挙期間中、この周辺では最悪の気象条件でした。11日の告示日は落葉を前に西山の山肌が白く染まり、その後、毎日雨が続き、雨が上がったのは18日のみと記憶しております。4人の候補者に対して気のきいたねぎらいの言葉などは思い浮かびませんが、それぞれに体力的にも大変な戦いであり、ご苦労さまという言葉しかありませんが、惜しくも落選した3人の候補者もいずれ劣らぬ長井を愛する情熱の持ち主であり、これからの長井のまちづくりにお力をお貸しいただけるものと思っております。

+